

会報の戻りから同期の消息が

上原 昇（2組）

関東同窓会では年2回、1月と6月に会報を発行しています。

会報の記事集め、取材、編集・割り付け、校正そして広告集めと編集長および担当の役員は、毎回、かなりの作業となります。出来上がった会報を読んだ人が「良かったよ」と感想を寄せてくれる時があり、それが一番の励みとなっています。

会報の送付数は約4千人と聞いていますが、悩みは宛先不明で戻ってくる会報が、毎回かなりの数になることです。

以前は郵便で配布していましたので、転送先が分かれば郵便局が転送手配をしてくれました。最近、コスト面から配送業者を宅急便に変えたところ、宅急便には転送の仕組みがないこともあり、戻りの数が増えているようです。

先日、関東同窓会事務局から65期の会報戻り3名分について、問い合わせと住所調査の依頼がありました。

以下、私(上原)と対象者のクラス幹事による調査から見てきた同期3人の消息です。

その1：当該の同期の自宅の登録された番号に電話をかけたところ本人が出てきました。

転居もしていないし元気とのことで一安心。それなのに、なぜ会報が戻ったか。登録住所をよくみるとマンションの部屋番号が抜けていました。これまでは郵便配達の人が部屋番号を探して届けてくれていたのだと思います。

その2：当該の人にメールをすると、すぐに返信があり。「最近引っ越した。上田の同窓会本部には転居の連絡をしたが、関東は忘れていた」とのこと。

上田と関東は別組織で住所変更の情報シェアはなされていません。

こんなケースは沢山あるのではと思いました。

その3：クラス幹事から当該の同期に、登録電話とメールで問い合わせるも交信できず。

最近なんらかの事情で転居したことは間違いありません。

そこで、旧住所に葉書を投函してみました。転居先を郵便局に連絡してあれば転送されるはず。1週間ほど経って、その同期の娘さんから電話があり、

「葉書が転送されてきました。父は体調を崩して施設に入っています」と。

転送システムの有効性とご家族の気配りに感謝しました。

長期にわたるコロナ禍もあって、大人数での同期の交流も絶えて久しい感じがします。

こうした住所を巡る出来事も、放っておけば消息不明で終わってしまいます。

機会あるごとに、情報の更新や見直しが大切だと思いました。

以上

(2022年9月26日記)